



東稲ニュース

第 110 号

早稲田大学校友会東久留米稲門会

令和 2 年 1 月 10 日発行
発行責任者 高橋 哲男
編集責任者 小山田朋樹

E-mail: bente-takahashi@jcom.home.ne.jp
http://higashikurume-toumonkai.com/
事務局 大矢 真弘 TEL042-475-8532

◎会長年頭挨拶

東久留米稲門会会長 高橋 哲男

明けましておめでとうございます。昨年の漢字は、新元号の「令和」に因んで「令」となりましたが、会員の皆様におきましては、おすこやかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。本年も宜しく願います。また、日頃、稲門会活動をご支援、協力いただきまして厚くお礼を申し上げます。

本年度の行事は、1月19日（日）が新年会で、4月18日（土）が定時総会、講演会の講師は、1981年理工学部卒の正田浩司氏で「東久留米市周辺の地形・地質」の講演になります。ところで本年4月から東京三多摩支部の主幹稲門会になります。三多摩には26稲門会があり、当会は26年目を迎えるので順番に当たりますので、「ワンチーム」として全力で対応したいと思います。役員並びに会員の皆様のご協力をお願いします。令和2年11月22日（日）に大隈講堂で東京三多摩支部大会が開催されます。早稲田大学歴史館等が建設されていますので会員の皆様には、是非ご来場し、昔の思い出を偲んでください。時期が近づきましたら、別途ご案内いたします。このことから、秋の懇親会については、開催できない場合もありますのでご容赦ください。

さて、昨年11月にマグカップ対象の方を中心に「マグカップの会」が設立されました。年に4回程度勉強会、会議を開催する予定です。同世代の会員の方は、是非出席して稲門会を楽しんでください。

会員数につきましては、定年制の延長等で他の稲門会同様厳しい状況ですが、会員募集について検討、対応して参ります。

会員の皆様、東久留米稲門会には15の部会があります。どこの部会にも加入していない会員の方は是非体験をしてください。稲門会との楽しみが増えます。

東久留米市民が楽しみにしている映画鑑賞会は、これまで通り年4回（2月、5月、9月、11月）に開催する予定ですので会員の皆様のご来場をお待ちします。

一昨年11月、早稲田大学では第17代田中愛治総長が誕生し、「世界で輝く早稲田」を目標としています。平成は、慶応が優位であったが、令和は、入試制度の改革、研究力の強化等早稲田が逆転する方向で取り組んでいます。雀荘もほとんどなくなり、学生も熱心に勉強をしています。

昨年は、ラグビーワールドカップは、たいへん盛り上がりました。流行語大賞、日本スポーツ大賞もラグビー代表が受賞し、にわかラグビーファンが増えました。早稲田ラグビーもファンが増えています。これに応えるため、全日本選手権で是非、明治に雪辱してもらいたいと思います。

最後に皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈りし、挨拶とさせていただきます。



会の告知板

【部会予定】

1月18日(土)	諸芸術鑑賞部会「ニューイヤーコンサート」	17:00	練馬文化センター
1月19日(日)	東久留米稲門会新年会	14:00	成美教育文化会館
2月2日(日)	第5回役員会	16:00	スペース105
2月8日(土)	マグカップの会	13:00	庄や 東久留米店
2月27日(木)	映画鑑賞会 第67回「鉄道員」	14:00	成美教育文化会館
4月5日(日)	臨時役員会	16:00	成美教育文化会館
4月18日(土)	東久留米稲門会第26回定時総会	14:00	成美教育文化会館

【大学・校友会関係】

2月22日(土)	三多摩支部幹事長事務局長会議	14:00	青梅市福祉センター
3月7日(土)	校友会春季代議員会	16:00	大隈講堂
3月21日(土)	三多摩支部主幹引継ぎ会	<詳細未定>	

<各部会定例活動一覧>

部会	1月				2月			
	日	曜	時間	場所	日	曜	時間	場所
女性サークル	16	木	10:00~	中央町地区センター	13	木	10:00~	中央町地区センター
書道	12	日	13:00~	成美教育文化会館	9	日	13:00~	生涯学習センター
俳句	26	日	13:00~	生涯学習センター	16	日	13:00~	生涯学習センター
囲碁	26	日	13:00~	成美教育文化会館	23	日	13:00~	成美教育文化会館
太極拳	11	土	10:00~12:00	成美教育文化会館	1	土	10:00~12:00	成美教育文化会館
	18	土	10:00~12:00	成美教育文化会館	15	土	10:00~12:00	成美教育文化会館
	25	土	10:00~12:00	成美教育文化会館	29	土	10:00~12:00	成美教育文化会館
バドミントン	毎週金		10:50~	東久留米スポーツセンター	毎週金		10:50~	東久留米スポーツセンター

会の報告

◎役員会報告 2019年度第4回役員会が12月1日(日)15:00~中央町地区センターにて開催された。

<議事録概要>

高橋会長より、秋の懇親会の感想の後、今年度の総会において卒業後60年以上の方にお贈りしたマグカップであるが、その方々が11月20日に「マグカップの会」という名称の会を立ち上げた。代表は國米氏でオブザーバーとして会長並びに会長経験者も入っている。次年度から部会として認定し、部会補助金も出すこととしたいとの報告の後、開会した。

1 大学・校友会・近隣稲門会・三田会関係

- | | | | |
|-------------|----------|-----------|--------------|
| (1) 小平稲門会 | 10/12(土) | 台風のため中止 | |
| (2) 稲門祭 | 10/20(日) | 早稲田大学 | 吉田・中村 |
| (3) 三多摩支部大会 | 11/10(日) | 青梅市福祉センター | 高橋・小山田・山口・大矢 |
| (4) 東村山稲門会 | 11/24(日) | 東伏見 | 高橋・山岡 |

2. 秋の懇親会の反省

料理、アトラクション等について意見交換し、次年度の実施において検討することとした。

3. 会長・部会長・役員忘年会

- (1) 日時：12月1日(日) 18:00～ (2) 場所：「寿美吉」(東横イン裏の蕎麦屋) 042-472-8400
(3) 会費：5,000円 (4) 参加予定者：26名

4. 新年会

- (1) 日時：2020年1月19日(日)14:00～ (2) 場所：成美教育会館3階 大研修室
(3) 担当、内容等：当日の役割分担、内容等について打合せを行った。

5. 2020年度定期総会

- (1) 日時：2020年4月18日(土) (2) 場所：成美教育会館1階ギャラリー、3階大研修室
(3) 講演者の件：正田浩司氏「武蔵野の段丘と湧水」
1983(昭58)年理工学部大学院卒 埼玉県立高校 地学担当教諭
(4) その他：講演者との打合せは来年1月に行い、会場である成美教育会館にはマイクの性能、音量等について申し入れを行うこととした。

6. 東稲会計11月末までの状況等：

会計担当の清水氏より、資料に基づき11月末現在の会計状況について報告があった。

7. 広報関係

- (1) 東稲ニューズ記事の募集、印刷日時等：

編集責任者の小山田副会長より、前回の東稲ニューズ(109号)において、いくつかの手違いやミスが重なり、原稿をお送りいただいた方に、大変不愉快な思いをさせた事例が数件あったので、お詫びしたい。編集委員会では、11月26日(火)に今回の反省会を行い、次号以降そのようなことの無いよう、原稿執筆者とは良くコミュニケーションをとり進める。校正送付の宛先確認、および、予定記事の掲載確認を編集委員全員で行う。の3点を反省点として確認した、との報告があった。

・次号(110号) 原稿締切：12月25日(水)、印刷日：1月10日(金)17:30～

8. 組織強化補助金252,000円について：稲門会の口座に入金済

9. その他 (1) 今後の役員会：2020年 2/2(日)・4/5(日)

(2) 映画鑑賞会：2020年 2/27(木)・5/28(木)・9/24(木)

10. サークル・部会関係：2020年度より、「マグカップの会」が追加になる。

11. その他：近隣各市の稲門会の組織状況について問い合わせがあり、後日、調査し報告することに。

・次回役員会について：2020年2月2日(日)16時より、「スペース105」にて。

◎校友会三多摩支部大会

11月10日(日)午後2時より、青梅市福祉センターにおいて2019年度東京三多摩支部大会が開催され、高橋会長、大矢事務局長、山口事務局次長、小山田副会長が出席した。今回は西部ブロックの青梅、昭島、羽村の各稲門会が主幹で主担当は青梅稲門会。当初は大隈講堂での開催を計画していたが、天井耐震補強工事のため使用できず、青梅市での開催となった。次年度は東村山、清瀬、東久留米が主幹稲門会となり、我々東久留米が主担当となる事が決まっているため、受付や会場設営、来賓や出席者への対応、会の進行等につき詳細に見聞し記録をとるようにした。

第一部の式典では、来賓の田中愛治総長による挨拶として、パワポを使用した「世界で輝く早稲田」の目標と現在の取り組みの説明と、山崎三多摩支部事務局長による活動報告があった。主な活動は、稲門祭における模擬店「サロン・ド・三多摩」の出店及び今回の「支部大会」の開催、そして8月の「総会」の開催。現状、「支部長任期の複数年化」、「支部ブロックの活性化」が課題となっており、来年度に引き継がれることになる。



総長を囲んで

第二部は懇親会で、メグ・オークラ(ジャズ・バイオリニスト)のコンサート、及び早稲田大学応援部によるアトラクションが行われ、校歌斉唱でお開きとなった。

小山田 朋樹 記

◎東村山稲門会第24回総会

11月24日(日)12時～ 東伏見キャンパス STEP22 にて開催された。

第1部〈通常総会〉：平成30年度の事業報告、会計報告、監査報告に続き、令和元年度の事業計画、予算案、役員補選が可決承認された。

第2部〈講演会〉：講師…早大野球部元監督(2011-2014年)岡村猛氏(県立佐賀西高校出身、1978年第2文学部卒)

演題「早稲田野球の神髄を探求して」

前半は、大隈侯や初代野球部長安部氏、初代監督飛田氏等を中心に早稲田野球のエピソードや精神、後半は岡村監督の実戦的な指導哲学や明日への提言など野球部を巡る話題満載の講演であった。なお、岡村監督指導のもと早大野球部は、2012年春季リーグ戦優勝・全日本大学野球選手権優勝の快挙を成し遂げた。

第3部…〈懇親パーティー〉：14時～ 来賓祝辞、新役員・新入会員・同好会紹介、東村山稲門会の歌、校歌斉唱など。大学のニューオールリズジャズクラブの演奏が花を添え、16時半盛会のうちに閉幕した。

山岡 恭子 記

◎東京都23区支部・東京三多摩支部2019合同会長会

11月29日(日)午後6時から「楠亭」において2019合同会長会が開催された。来年度は、当会が中心で会議を開催するため大矢事務局長も出席した。

東京都23区支部長高田中野稲門会会長の支部長複数年を中心とした開会挨拶で始まり、来賓の紹介の後、田中総長の挨拶、世界で輝く早稲田として国際文学館(村上春樹ライブラリー)の建設、建築家は、隈研吾氏、総額12億円の建設資金について(株)ユニクロ代表取締役柳井正氏が全額寄付をした。また、寄付については64万人の校友のうち、寄付をしているのは1万人以下であり、寄付の必要性を説明していきたいとの話であった。

報告事項は、「東京都23区支部の新運営体制移行」の経過説明であった。その後懇親会が開催され、大矢事務局長のリードで校歌斉唱の後、午後7時40分閉会となった。

高橋 哲男 記

◎2019年商議員フォーラム

12月7日(土)午後2時から早稲田アリーナで商議員フォーラムが開催され、当会からは、安次峰前会長、高橋会長が出席した。亀井商議員会長より、開会挨拶で始まり田中総長より約30分間パワーポイントで「世界で輝く早稲田」に向け1年間の成果と今後の早稲田のあり方について下記を中心とした講演があった。

①教育学部新棟の建設 ②リサーチイノベーションセンターの設立 ③村上春樹ライブラリーへ(株)ユニクロ柳井正社長より12億円の寄付 ④エール大学との交換留学 ⑤各メディアへ早稲田の情報発信により、大学の評価が上がる。週刊朝日10月18日号「平成は慶応であったが令和は早稲田」の記事

学事報告は、笠原副総長より約1時間「早稲田大学の研究力強化に向けた取り組み～早稲田オープンイノベーション構想～」について受入れ研究費が足りないのでノーベル賞に向けては寄付金が必要。2020年3月10日早稲田アリーナで「早稲田オープン・イノベーション・フォーラム」を開催(参加費無料)。最後に齋藤理事より寄付金の依頼があり午後4時10分閉会した。

高橋 哲男 記

部会だより

【活動報告】

<マグカップの会> 11月20日(水) 「マグカップの会」発足

当稲門会の80代、90代の会員諸氏にとって、居心地のいい部会が誕生しました。昨年11月20日発足した「マグカップの会」がそれです。母校、早稲田を卒業して60年以上経過した会員を対象に、当稲門会本部は昨年からはマグカップを贈ることを制度化しましたが、それを受け取った会員の有志と賛同者があつまって結成したのがこの会です。当稲門会では15番目の部会という事になります。

会合は、年4回、午後1時から。昼餐をともにしながら、談論風発して活力を取り戻そうというのが狙いです。毎回、部会員は輪番で20分間のスピーチをおこないます。何を話そうと自由。天下国家を論じて結構、生涯を振り返り自らの来(こ)し方を語ってもOK。ただし、スピーチは強制されるものではなく、あくまで希望者の担当となります。この部会の会員は、もちろんマグカップ受領者が中心ですが、基本的には開放型の部会。当稲門会の会員であれば、どなたでも入会可能です。若い人たちも、やがてはマグカップを受け取る“マグ予備軍”ですから、志ある向きはどんどん入会して80年、90年をきた文化財的な人材との交流を深めていただきたいものです。



伊能忠敬は全国の海岸線を丹念に測量、英国海軍が舌を巻く正確さで日本地図を作成しました。ときに伊能は56歳から73歳。その弟子、間宮林蔵が樺太地図づくりを始めたのは60歳。幕末・明治の平均寿命は40歳未満でした。二人の挑戦を現代風にとらえると、まさに80代、90代、それ以上での“決起”であったといえます。高齢者といえども大きな仕事を仕遂げることができるのです。高齢者を疎外してはいけません。高齢者側も“ひきこもり”などしてはいけません。われら「マグカップの会」は、昨年11月末、101歳で亡くなった中曽根康弘元首相の名句を借りて1句ものしてみました。
『辞してなお 命の限り 東稲会』 國米 家巳三 記

<囲碁部会>

第19回稲穂会囲碁大会

9月22日に開催されました。実はこの大会は個人戦のみであり Aクラスは無差別 Bクラスが5～6段のハンディ戦 Cクラス3～4段 Dクラス級位者初二段 に分かれていました。過去には6クラス分けの時代もあったようです。

今回私と栗林さん(西東京)はBクラス。苺草さんがAクラス出場予定でしたが体調不良で欠席でした。過去には無差別級で数回優勝されていますので残念でした。

B1は4名の総当たり、B2もそれぞれ3回対戦し3連勝した者同士での決勝戦という方式です。

東稲に入会して4年目、個人戦に自信のない私は過去2回スルーしてきました。今回初参加で初優勝できたのはラッキーもありますが初参加のため私に与えられたポイントが257点と比較的楽な位置にいたことが大きなアドバンテージでした。

初戦は古谷さん(杉並271P)私の黒番2子局、黒6目コミダシの碁。危なかったのは私が15目ほど優勢の碁であったが残り時間が5分しかないことに気づき、その時相手は15分くらい時間を残していました。相手が打つと間髪を入れずに打つように慌ててうち続け、残り1分のところで相手から。

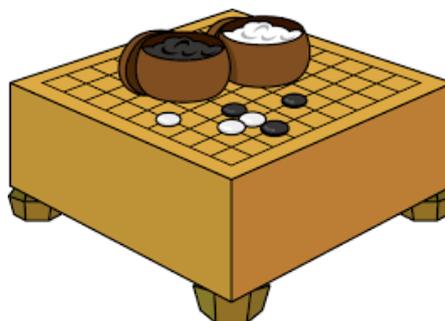
「ありません」ほっとした瞬間でした。

残り2戦も勝ちよいよ決勝戦。B2で3連勝の若松さん(杉並271P)との碁は序盤で運よく22目の大石を召し取り、勝敗が決まりました。

栗林さん(269P)は初戦に敗れB2を2位通過。3位決定戦で惜しくも4位勝をいただきました。

総勢34名の参加者でしたが目立ったのは杉並の11名 永楽倶楽部の6名 目黒3名。特に永楽は無差別級に4名出場。因みにAクラス優勝は永楽倶楽部の池松さん Cクラス優勝は町田の佐藤三段 Dクラスは目黒の永田初段でした。

次回私の持ち点に加算されるらしいので、かなり厳しくなりそうです。



中村 敏明 記

お詫び この「第19回稲穂会囲碁大会」の報告は、本来前号の東稲ニュースNo.109(11/10刊行)に掲載される記事でした。編集作業上のミスが重なり、頂いていた原稿の掲載漏れ事故を招き、今号での掲載となりました。執筆いただいた中村部会長をはじめ囲碁部会の皆様に、深くお詫び申し上げます。

編集責任者 小山田 朋樹

<野球早慶戦観戦部会>報告

年が改まってから昨秋の出来事を書いては、チョコちゃんにも鬼にも叱られそうですが、昨秋の早慶戦は印象に残るものでしたのでご容赦願います。尚、観戦記ですが観覧した試合だけでなく全般的に回顧します。

昨秋、慶大はそれまで8連勝と圧倒的に強く、完全優勝目前。投打に纏まりが良く、プロ野球のドラフトに育成含め4選手ノミネートされていました。一方、早大は5勝5敗で勝ち点僅か2。一敗すれば慶大の優勝を眼の前で見る破目になり、勝ち点を落とせば4位転落という、まさに崖っぷち状況でした。4選手がプロ志望届出すも、1名も指名ナシ。



早慶戦神宮球場にて

11月2日(土)の第1戦を川上さん、黒坂さん、山口の3名が外野席で観戦。従来、内野席観戦でしたが、黒坂さんと私はリーグ戦外野席観戦の常連で、「ゆっくり脚を伸ばせますよ」と川上さんに申し上げてご容赦願った次第。

結果は実力差が出て1-7のスコアで完敗。慶大優勝の瞬間を見る破目に陥りました。不敗神話を誇る高橋会長を無理にでも引っ張ってくればと悔いながら、東久留米で「大残念会」。それでも3人で野球以外の話に花が咲き、それなりに楽しく過ごしました。

翌日の第2戦はいよいよ切羽詰まった試合。私は前日の口惜しさと二日酔いの為、球場へ足を運ぶ気力がなくテレビ観戦。大矢さんご夫妻の応援の甲斐あって6-4で

一矢報いました。NHKは早慶第2戦を放映するのが恒例ですが、リーダーのすぐ傍で校歌を歌う大矢ご夫妻のお姿がハッキリと画面に。第3戦も所用があつて観戦出来ず。夕方スマホで東京6大学野球サイトを見ると、何と4-3でサヨナラ勝ち。この試合エラーで慶大に点を献上してしまった3年生金子君が9回裏2死から殊勲のサヨナラヒット。慶大の完全優勝の夢を打ち砕き、慶大から唯一勝ち点を奪ったチームとなって3位の座を死守しました。

小宮山イズムの一層の浸透と有望な1・2年生の成長で2020年シーズンは大いに期待出来るものと思います。春のシーズンの皆様のご参加と応援をお願い申し上げます。

山口 謙二 記

<早稲田ラグビー観戦記>

実は今(2019年12月23日)、大いなる不安と僅かな希望に揺れながら不思議な感覚に捉われこの原稿を書いている。本東稲ニュースが皆さんに届けられるであろう頃の2020年1月11日にはラグビー大学選手権の決勝戦が行われていて、早稲田の優勝に歓喜の祝盃を片手に藍原さんへ喜びの報告をして飲んでいるか?他校の優勝に愚痴と悔し涙をこぼしながら敗者の酒をのんでいるか?いずれにしても酒は飲んでいるのだが。2020年正月の準決勝、決勝の結果が見えないまま書くのはつらいが、想像を膨らませて書くしか無い。

2019年はワールドカップラグビー日本大会が開催され、早稲田ラグビー対抗戦は、8月末から9月中旬までの前半戦と11月4日から12月1日までの後半戦に分かれて行われた。ワールドカップ期間は世界中のラグビー選手、ファンがこのイベントを楽しみ、感動し興奮する為の時間となり、大学ラグビー、社会人等の試合は休止となった。日本代表の歴史的活躍もあり、日本国中が盛り上がり、ラグビー

競技の楽しさや、面白さが解るきっかけになった。マイナースポーツに位置づけられた日本ラグビー界に取って非常に良い事であった。この勢いでラグビー人気が高まれば望外の喜びだ。

さて、我早稲田ラグビーはやや格下の相手と戦う前半戦が始まり、菅平の夏合宿の好調さを維持し日体大、筑波大の難敵にも強化して来た堅いデフェンスと、才能あるバックス陣の活躍で、低失点、高得点とまさに優勝ねらう王者の如き戦いぶりであった。弱点だったフォワードも強化されていた。

しかしWカップを挟んでの後半戦の11月10日の帝京戦から俄かにディフェンスが綻び始め、弱いはずの帝京に開始早々簡単に2トライを奪われた上に、パスミスインターセプトされ、やらずもがなのトライを献上してしまった。前半は25:17とリードされた。この失点が最後まで響き、終了間際のロスタイムにキャプテン斎藤の逆転トライがきまり34:32で辛勝した。

11月23日恒例の早慶戦、この試合に負ければ大学選手権の出場がなくなる慶應は、将に鬼気迫る勢いで伝統の魂のタックルを仕掛けてくる。受けに回った早稲田の攻撃陣は、必死の防御を崩せず2トライを挙げるのが精一杯となった。17:10と1トライの僅差で勝利を拾った。

早慶戦には、実力以上の何かがある。例年と同じ伝統校らしい好試合となった。

12月1日の早明戦は全勝同士の対抗戦決勝となった。舞台も場所も整い、将に真剣勝負ガチ対決。しかし、開始早々のスクラムで、明暗が分かれた。早明ともにファーストスクラムに賭けていた。お互いに組み合うも何度もスクラムが落ち、組みなおしが繰り返された。試合進行上やむなく主審は早稲田の反則を取った。これにより明治フォワードは勢いづき、早稲田フォワードは受け身に回った。体格差の劣る早稲田が受け身に回れば勝ち目は無いに等しい。ラグビーは僅かでも気後れがした方がボール争奪に負けるスポーツだ。最後まで攻勢になり切れない早稲田は36:7で今季初の大負け試合となり、対抗戦の優勝を逃した。

しかし点差程の負けでは無かったと思う。早稲田に10cmでも前に出てデフェンスする気持ちが甦れば勝てるだけの戦力は整っている。Wカップでも優勝した南アフリカや準優勝のイングランドもデフェンスのチームであった。攻撃力はあるが、デフェンスにやや難があるニュージーランド(世界No.1の評価)は負けた。

練習を重ね、デフェンスを立て直し、前回のリベンジを誓い、2020年正月2日の天理戦、11日の明治戦(東海大は来ないと思う)を勝利して、「荒ぶる」を藍原さんが期待した斎藤、岸岡、幸重、中野、桑山、梅津、森島の4年生に歌って欲しい。心から願う。

小野 泰右 記



早稲田のラグビー

<俳句部会>

第233回 12月22日(日)

兼題：焼芋 枯葉 席題：オリンピック

<高点句>

焼芋をトーチに模しておどける子	比護喜一郎
焼芋をふたつに頒けて夢語る	大久保泰司
焼芋を懐に抱き家路急く	神田尚計
枯葉よと歌うグレコの黒衣装	川島知子
焼芋や昔を写す古新聞	橘優治

<自選一句>

着ぶくれて五輪の話句の話	片平るみ
焼芋を囲む笑顔の幾世代	杉本達夫
小走りに焼芋届けるおやつ時	横田慧子
寒月や五輪会場を走る人	三浦洋子
華やかに囲まれている焼芋屋	馬場清彦
ふた取れば焼芋の香の店中に	安宅武一

第232回 11月17日(日)

兼題：小春 大根 席題：駅

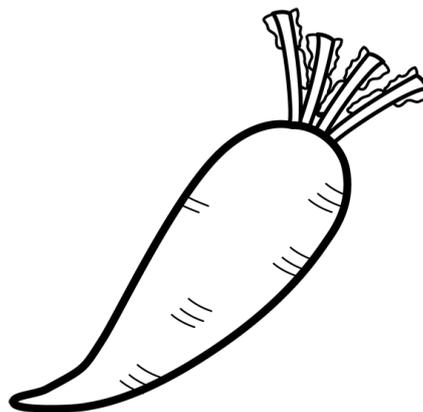
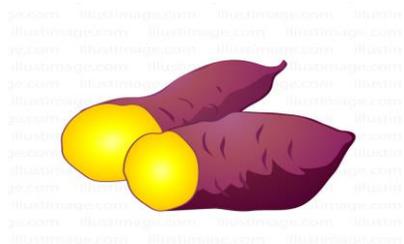
<高点句>

廃線の駅舎の上の冬銀河	川島知子
軽トラに大根の山市近し	比護喜一郎
冬立ちぬ左遷の友を送る駅	馬場清彦
首根っこ抑え大根洗ひけり	片平るみ

<自選一句>

まてまてと孫の背追う小春の野	横田慧子
山茶花の長き盛りや無人駅	大久保泰司
初時雨無人駅舎に灯のともる	杉本達夫
うっすらとおでんの大根色づきて	神田尚計
書道展の添書き優し小六月	橘優治
抜いて欲し青首もたげ呼ぶ大根	三浦洋子
大根切る厨の音で目を覚ます	安宅武一

片平 るみ 記



<臨時ウォーキング (R1. 11. 25) 【小平グリーンロード 西側半周 (野火止用水、玉川上水) を歩く】活動報告>

台風19号は、10月12日に大型の強い勢力で伊豆半島に上陸した後、各地に甚大な被害をもたらしたが、我が部会も、10月の西吾野駅から高山不動、並びに11月の奥多摩鳩ノ巣溪谷のウォーキングが、歩く道の通行止め等の障害の為に、二カ月連続して中止を余儀なくされた。そこで急遽、近場で策定したのが今回のウォーキングである。

数日雨模様が続いていた中、予定当日も「曇り昼から雨」という予報であったが、雨の場合は途中の鉄道駅で切り上げる覚悟で実施を決めた。今回は、小平グリーンロードの西側半周を巡る、即ち野火止用水をその流れ始め箇所迄遡り、そこから反転して玉川上水に沿って下る11km程度の行程で企画した。総勢12名(男7、女5)で西武新宿線久米川駅からウォーキングを開始、八坂駅を潜って、「九道の辻」に

出た。この辺りから野火止用水がハッキリとした流れの形として目に出来るようになる。用水に沿って歩を進めて行く内に、天気予報が良い方に外れ始め、用水を囲む緑道を暫く進み、雑木林に木漏れ日が落ちる気持ちの良い環境に浸りながら、昼食にありついた。武蔵野のイメージとはこうした光景だと思ったものである。



こなら橋



上水小橋

野火止用水は明暦元年（1655）、川越城主・松平伊豆守信綱が水利に不便な武蔵野を開拓する為、玉川上水からの1/3の水利権を得て開いた。以後300余年間農業や生活用水として利用されたが、昭和39年に玉川上水からの送水が中止され、昭和59年に清流復活事業で元の姿に蘇った。玉川上水駅から300m程下流の小平監視所（上水小橋の前）で取水され、雰囲気が素晴らしい松の木通りの下の暗渠を通り、東大和駅前青梅橋を過ぎて暫くして、野火止用水が現れる。九道の辻、東久留米市縁辺の水道道路に沿って流れ、平林寺を過ぎ、その先、最終的には暗渠となって新河岸川に注ぐ全長24kmの用水である。

玉川上水は、昭和38年に出来た小平監視所から東村山浄水場へ導水管で送ることになったことにより、下流は空堀状態となったが、都の清流復活事業により、昭和61年から昭島市の下水処理場の浄化水を流すようになった。「玉川上水清流の復活碑」の傍の上水小橋を、浄化水の湧き出しを見ながら渡り、反転して玉川上水沿いに緑道を下る行路を辿った。緑道は整備が行き届き、平日にも拘わらず、雑木林の中の小道を散策する人々が行き交い、東久留米市にもこのような場所があったらナア、と思ったものでした。

当初の企画は鷹の台駅迄でしたが、健脚が多く、更に2.5km先の一ツ橋学園駅迄足を延ばしてしまったのも、絶好のウォーキング日和に恵まれたことによるものでしょう。

東久留米への帰路の途中、所沢で恒例の打ち上げを行った。

東海 俊孝 記

<臨時ウォーキング (R1. 12. 9) 【黒目川を新河岸川との合流点まで辿る】活動報告>

毎日生活している町中を流れている「黒目川は、流れ流れて何処に行くのか」に興味がありませんか？ 11月の臨時ウォーキングで、東久留米に比較的身近な野火止用水と玉川上水を歩いた延長線上で、この興味に迫ってみようと思ったのがこのウォーキングの始まりです。

黒目川は、小平霊園内に源を發し、東久留米市、新座市、朝霞市を流れ、朝霞市大字根岸で新河岸川へ合流する全長17.3kmの一級河川です。途中、東久留米市の神宝大橋で落合川が合流しており、今回はここを出発点として、新河岸川との合流点迄の約11km（帰路の最寄り駅迄を含む13km程度）を辿ることにしました。



黒目川の川堤にて

前回のウォーキングに引き続き、天気予報が如何に当てのならないものかを再認識しました。前日の予報は「晴れ時々曇り」でしたが、当日はお日様を拝むことが全くない寒々とした日となりました。総勢14名（男9、女5）、広い川面を見やりながら遮るもののない川堤を歩いている時は良いのですが、休憩で動きを止めると「寒い」が口をついて出ました。

稲門会の先達のお話では、黒目川、落合川共に、昔の流域は曲がりくねって、ぬかるみも多く、一時期はどぶ川の様相のところもあったとのことですが、今回歩いてみると、河川として良く整備され、流れる水も綺麗なものでした。歩き始めから数キロは、直線的な流れに変えたような跡、鋼矢板を打ちっ放しの護岸等、その事が窺われる箇所が続いていました。そんな中、歩きながら目についたのは、数種類の鷺や黒い鵜等の野鳥の多さで、綺麗な川にそれらを養う魚や水草が多いのかと、豊かな生態が想像されました。行程の半ば辺り、広大な朝霞市営墓苑を過ぎる辺りからは、川幅も広くなり一級河川然とした佇まいを見せ、両岸に建物が多くなって、これが東武東上線の朝霞台駅付近まで続きます。その先は、大きく右旋回（東側に）して、非常に緩やかな流れとなり、新河岸川の川面に吸い込まれるように合流していました。合流する辺り一帯は背の高い草が茂る広い原となって川面が見難く、朝霞調節池に隣接する何もない所で、道は行き詰まりとなっている為、少し離れた川堤の上から、皆で間遠に合流点を眺めていました。出発点であった、民家が近い落合川と黒目川の合流点とは、風景は全く異なっていました。黒目川終焉の地点という、何だか分らないが、何かを期待していたようなロマンチックな思いは拍子抜けで、茫漠とした感想が残った記憶があります。

合流点から2km弱歩き、東武東上線朝霞駅から、適度な疲労感と共に帰路に着きました。朝霞台駅からバスで東久留米に直帰したグループと、途中の朝霞台にて恒例の打ち上げを行ったグループに分かれました。

東海 俊孝 記

<カラオケ部会> 12月24日(火) 「カラオケを楽しむ会」

本年5月に元号が「令和」になったと思ったら、アツという間に、はや年末を迎え、将に「光陰矢の如し」です。巷ではイブで賑わっている24日、15名（この他安藤夫人同席）の歌侍が、「オンチツ」に集結、おのおの方今年歩んできた道を振り返り、思いの丈を歌に託して、すっかりした気分になりました。

恒例により、馬場さんの「マイクテスト」の後、いよいよ火蓋が切って落とされ、順次それぞれ日頃鍛えし18番のご披露に及び、目の前のご馳走に舌鼓を打ちつつ、オンステージの歌手に歓声と拍手を送り、徐々に盛り上がりながら、冬の夜は更けていきました。当日、安藤ご夫妻が参加されたことに伴い、全員で「二人は若い」を歌い、ご長寿を讃えました。

頃はよし、「紺碧の空」に続いて「早稲田大学校歌」の文字が浮かび、渡辺さんのタクトにより、お互い肩を組みながら、それぞれ万感の思いを込めて高らかに熱唱、これで今年も思い残すことなく、三々五々「よいお年を」とエール交わし、凍てつく夜空を仰ぎつつ、ホームグラウンドを後にしました。

なお、後ろ髪を引かれる想いの猛者は、暦が変わるまで残業に勤しんでいました。

当日の参加者（敬称略、歌の順）と曲目

1. 馬場 清彦 ①酔いどれ ②志那の夜 ③つぐない ④望郷酒場
2. 帆角 信美 ①きらめく星座 ②星の流れに ③星影のワルツ
3. 井坂 宏 ①りんご追分 ②愛燦燦 ③ラストダンスは私に
4. 比護喜一郎 ①みちづれ ②女心の唄 ③恋の町札幌
5. 安藤 信雄 ①旅笠道中 ②高原列車は行く ③踊子
6. 東海 俊孝 ①すごい男の唄 ②時代遅れの酒場 ③野風増

-
7. 高橋 哲男 ①寒い朝 ②祇園小唄 ③からたち日記
 8. 小山田朋樹 ①見上げてごらん夜の星を ②人生の扉 ③いのちの歌
 9. 山口 謙二 ①ラブユー東京 ②夜の銀狐 ③そして神戸
 10. 平山 正徑 ①冬隣 ②かもめの街 ③銀座の雀
 11. 渡辺 真司 ①宗右衛門ブルース ②ペッパー警部 ③石狩挽歌
 12. 後藤 秀作 ①嘲笑 ②花が咲く日は ③片恋酒
 13. 長谷山勝美 ①落葉しぐれ ②女のため息 ③北国の春
 14. 安次峰 暁 ①街のサンドイッチマン ②喫茶店の片隅で ③カチューシャの唄
 15. 高柳 康夫 ①北酒場 ②ブルースカイブルー ③涙をふいて

高柳 康夫 記



令和元年イブに集まった歌侍たち

新連載企画

・・・オリンピックこぼればなし・・・



1964年の東京オリンピックの時は小学校5年生だった。我が家の白黒テレビでは毎日「東京オリンピックをカラーテレビで見よう！」と宣伝していた。幼い私は、オリンピックにあまり関心がなく、覚えているのは、最終聖火ランナー坂井義則君、マラソンの円谷選手そして金メ

ダルをとったアベベ選手ぐら이었다。アベベ選手の競技終了後のコメントは今でも覚えている。「もう一度走れる。」ゴール近くで倒れ込む選手をよそにこの様な言葉が出るのは、「本当に強いのだな」と思った。

有賀 千歳 記

オリンピックアード

私が中学1年生だった1964年の10月、自宅テレビに囁り付いて、東京オリンピック開会式を見ていた。昭和天皇が、あの独特の節回しのお言葉で開会宣言を行ったが、なぜ「オリンピック」と言わず「オリンピックアード」なのかな?と思った。もしかして……。でも、周りの誰も指摘しないし、いつも御用邸にいらっしゃるときは、我が家の前の道をパトカーに先導された車に乗って、沿道の住民に手を振りながら通り過ぎるとしても偉い人なので、「聞いてはいけないこと」なのかなと思っていた。55年目にしてその記憶が蘇り、改めてググって見たら、「オリンピックアード」とは、1896年の第1回近代オリンピック開催年1月1日を起点とする、4年間を1単位とする「期間」を示す言葉とのこと。オリンピック競技会そのものを指す場合もあり、夏季オリンピックの正式名称は「Games of the (回数) Olympiad」で、直訳すれば「第(回数)オリンピックアードの競技大会」とのことである。だから今回の東京2020大会の正式名称は『第32オリンピックアード競技大会』となるようだ。(出典:ウィキペディア)

「東横線で渋谷まで」

当時、私は横浜の関東学院中学の1年生。自宅のある葉山町から、バスと京浜急行の赤い電車を乗り継いで通学していた。その頃のことは、もう微かな記憶しか残っていないのだが、学校行事として教師に引率されて代々木のオリンピック会場まで、水泳の飛び込み競技を見学に行ったことを覚えている。

競技そのものは、なんだかよくわからず会場も盛り上がっていなかったように記憶しているので、おそらく観客動員で駆り出されたのだと思う。その際横浜駅から渋谷駅まで、東横線の緑色の丸々した電車に乗って行った。電車と言えば青とクリーム色の横須賀線、緑とオレンジ色の湘南電車、そして赤の京浜急行しか知らなかったのも、緑の丸々した電車がとても印象に残っている。現在の渋谷駅周辺は大きく変貌しているようだが、ハチ公前広場にその緑色の丸々した電車の顔部分が置かれていて、それを見るたびに記憶が紐づいて、半世紀前のあのオリンピック見学の事が思い出される。 小山田 朋樹 記

1964年はカオス

私が強烈に思い出すのは、1964年です。

1964年6月には新潟地震。10月には東京オリンピック。しかも受験勉強をする、新潟県立高校3年生。3つ一緒の激しい変化の年—悲、喜、苦。

まず、東京オリンピックです。

こんな小さな島国日本で、オリンピックが開かれるなんて!! 奇跡と思いました。何しろ、地図で見ると日本は小さいので。

もちろん、東京に行って見ることはできず、テレビで見るだけでした。

開会式の日本選手団の赤、白のユニフォームはとても美しかった。また、世界にはなんと多くの国があるのかとびっくりしました。習ったのと違って、直接、人と国旗を見ると実感しますよね。

競技では、特に、女子バレーボールチームの活躍。日本の女子バレーボールチームは「東洋の魔女」と言われました。信じられない! すごーい! という状態でしたね。(興奮しやすい性格)

受験勉強を邪魔するオリンピックと、思っていました(笑)。6月には新潟地震で甚大な被害を受けました。その上、オリンピックというお祭り。何でこんな年に受験勉強なの?(涙)

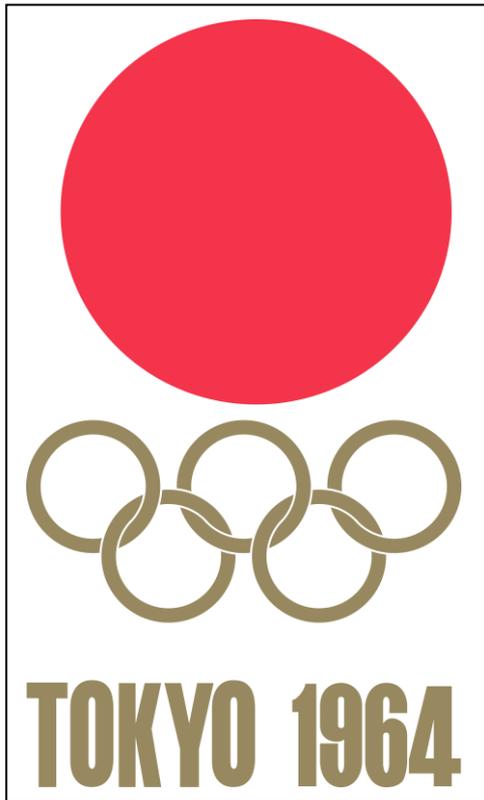
あの時代は、高校の女子のエリートコースは、「新潟大学を卒業して教師になる」でした。国立大学を受けるには数Ⅱが必要でした。数Ⅱと社会の選択で、社会を選んでいたので、受験用に数学の特訓を受けていました。中学時代は得意だったのに。受験勉強の苦しさをオリンピックに向けていました。自分の数学の才能がないためなのにね(トホホ)。アホでした。

身近に、オリンピックと受験勉強の重なる人がいたら、伝えてくださいね。

イベントが重なった時は、後で思えば特別な時を過ごしたのだなということ。

オリンピックも見て、気分転換をしてくださいねというお勧め。

前川 初子 記



こぼれ話

2020年の東京オリンピックでは33競技が行われますが、1964年の東京オリンピックで行われたのは20競技でした。新しく加わった主な競技には、空手、卓球、ゴルフ、テニス、バドミントン、トライアスロン、アーチェリー、野球などがあります。

第一回のオリンピックから続いている競技は、陸上、体操、水泳、フェンシングの4種のみ、一方で一度しか行われなかった競技もあります。ほとんどが1900年のパリ大会で行われたものです。その頃は、オリンピックといっても万博のおまけの競技会との色合いが濃かったようです。

その競技とは・・・ ・鳩射撃（鳩を打ち落とし数を競った） ・水中障害物競争（セーヌ川） ・魚釣り ・凧揚げ ・熱気球 などなど。

5回行われた競技には、綱引きやら綱登りもありました。

競技の様子を見たい気がしますね。

片平 るみ 記

今後の予定

<ウォーキング & 山歩き部会>

ウォーキング & 山歩き（第76回、第77回）を検討中

日時：2月の月曜日（10 or 17）と3月の月曜日（2 or 16）

候補：善福寺川緑地公園→和田堀公園（荻窪→西永福） or 東伏見公園→千川上水
湯島天神の梅見 or 高尾梅郷・木下沢梅園（昨年に引き続き）

<映画鑑賞会> 第67回 2月27日(木)14時～ 於：成美教育文化会館

「鉄道員」 IL Ferroviere (1956年伊 115分)

監督：ピエトロ・ジェルミ、音楽：カルロ・ルスティケリ、

出演：ピエトロ・ジェルミ(機関士)、ルイザ・デラ・ノー(母親)、シルヴァ・コシナ(長女)
エドアルド・ネヴォラ(末子)

イタリアの社会派監督ピエトロ・ジェルミが自ら主演を演じ、力強くも味わい深い演出が一際冴える代表作。飲んだくれの頑固親父、家族を支える優しい妻、不良と付き合う長男、父親に反目する長女、人情味溢れる居酒屋の風景…。しっとりとまぶたに浮かぶシーンにはカルロ・ルスティケリの哀感溢れるメロディーが心に沁みる。そして何より、サンドロ坊やの笑顔といじらしさはまさに天使のよう。

ややもすると崩れ落ちそうになる一家5人を、健気にも見えない糸でつなぎ止める姿に胸打たれる。家族の繋がりをテーマにしたドラマの中でこれほど心温まり、余韻を残してくれるものは無い。まさに映画史に残る名作中の名作である。

映画鑑賞会 記



東稲広報室

<訃報>

元会員 森富士雄氏 (S35 商) が、昨年10月25日に逝去され11月4日に葬儀が執り行われました。
心よりお悔やみ申し上げます。

<新年会ビンゴゲーム賞品提供のお願い>

1月19日(日)14:00～、成美教育文化会館にて開催される当会新年会ですが、アトラクションとして例年通りビンゴゲームを行います。上位賞品には「商品券」を用意しておりますが、参加の皆様にも賞品に相応しい「品物」の提供をお願いしております。ご自宅で余っているもの未使用のもの等、新年会当日にご持参いただければ幸いです。

新年会担当幹事

<稲門会の皆様への情報提供>

第16回市民つなひき大会参加へのちらしがスポーツセンターにありましたので、ご紹介します。



- ・日時 令和2年2月29日(土)
午前9時～ (午前8時30分より受付)
- ・場所 東久留米スポーツセンター第1体育室
- ・参加費 無料 参加賞があります。

<参加申し込み>

令和元年12月16日(月)～令和2年2月20日(木)午後5時まで

東久留米スポーツセンター

電話 042-470-7900 ファックス 042-470-2688

送 〒203-0011 東久留米市大門町2-14-37

※代表者会議が、令和2年2月22日(土)午前10時～スポーツセンター3階会議室であります。

お問い合わせ：東久留米市教育部生涯学習課スポーツ振興係

電話 042-470-7784

※つなひき講習会・練習会があります。

令和2年1月11日(土)、2月8日(土) 午前10時～12時

東久留市スポーツセンター第1体育室

ニューススポーツデーの企画で行いますので参加費100円かかります。

※チラシでは8人1組でつなひきをやっています。年代別の大会なのか、参加人数は8人なのか等疑問点は上記東久留米市教育部生涯学習課スポーツ振興係に問い合わせてください。

<会員リレーエッセイ> ～噴水広場～

根岸の里の侘び住まい

杉本 達夫

「※※※※根岸の里の侘び住まい」という句がある。冒頭の季語が思い出せない。そこで※※※※※の部分に、仮に「梅が香や」を入れてみる。

「梅が香や根岸の里の侘び住まい」

早春のいかにも静かな郊外の風景が、梅の香りとともに浮かんでくるのではないか。根岸は今日のビルと人家に埋められた根岸ではない。江戸時代の江戸の郊外、上野の山から続く林の裾に田園がひろがり、大店の寮(別荘)や隠居所が点在していた根岸を想定したい。ついでながら、かの勝小吉も、晩年はここに引っ込んで病を養い、口述で『夢酔独言』を遺したが、息子麟太郎すなわち海舟の雄飛を見ることなく終わったのは、小吉のために惜しまれる。それはともかく、冒頭の句は落語をはじめ、いろいろな場面で、季語を変えればそのまま成り立つ便利な句として、笑えばなしのたねになる。

「夕涼み根岸の里の侘び住まい」

「名月や根岸の里の・・・・・・」 「降る雪や根岸の・・・・・・」

ほかのどんな季語をおいても、それなりにしつとりと落ち着く、四季共用、年中無休、まことに便利でありがたい句なのである。

では、わたしはいま東京の西郊東久留米市に住んでいるが、たとえば

「梅咲いて東久留米の侘び住まい」

と詠んで、句が成り立つだろうか。形式に欠けるところはない。ないが、読んで情景が浮かぶだろうか。侘び住まいというにふさわしい暮らしが、浮かび出るだろうか。

四十数年前に越してきたころは、団地周辺は豊かな田園だった。すこし東に歩けば乳牛がおり、西に歩けば豚小屋があった。だが、農地は次つぎ宅地となり、庭の無い住宅が隙間なく並んでいる。そしてわたしもマンションという、土地を離れた空間に住んでいる。風雅の里の侘び住まいとは、あまりに距離が遠すぎる。だいいち、ここは地名に知名度がない。江戸期の村に遡っても、その名を聞いて風流と結びつける人は、江戸にはいなかっただろう。四季折々の暮らしを風雅にみる、侘び住まいを文字に込めて表現できるのは、やはり往時の根岸の里のほかにはないのかもしれない。そう考えれば、ただの便利な句であるようでいて、じつは豊かな内実を湛えた句であるだろう。

「梅咲いて」で思い出した。トム・克蘭シーの国際政治謀略小説『日米開戦』(田村源治訳、新潮文庫)に、日本の俳句が小道具に使われている。ソ連のKGBが日本国内に作り上げた諜報組織が、俳句を組織内の合言葉にしているのである。その俳句を、小説は有名な俳句と称しているが、翻訳では

「梅が咲き、女たちが浮かれて新しい手拭を買う、女郎屋の部屋で」

という、まのびした散文になっている。これが俳句であるはずがない。もとはどんな句なのだろう。有名な句というからには、まず芭蕉かなと考え、高名な研究者に訊ねてみたが、心当たりがないとの答

えだった。小説の文章をそのまま訳せばこうなるのではあろうが、もとの俳句を探し出すのが訳者の務めというものだろう。読者は元の句を知りたいではないか。

後年、わたしは偶然に、もとの句を知った。蕪村の句集を読んでいて、

「梅咲いて帯買う室の遊女かな」

という句にぶつかったのである。内容からして、この句に間違いあるまい。室（ムロ）とは播州室の津であり、遊郭にぎわう港町だった。梅が咲く頃に帯を買うのが、この地の遊女のしきたりであったらしい。トム・克蘭シーがどこからこの句を仕入れ、なぜ諜報組織の合言葉に利用したかは知るべくもないが、彼にこの句を教えた人物あるいは書物は、「室」を部屋だと誤解したものと思われる。なお、山田宗睦『道の思想史』中の「遊女の道」の章に、古代の渡来人の海上の道移動に合わせて遊女が誕生した歴史と、室の津の遊郭の長い繁栄が述べられていた。もっとも、わたしの記憶はしごく頼りない。蕪村が遠く室まで足を運んだかどうかは知らない。

考えてみれば、四季共用、年中無休の句は幾らでもありそうである。まず、わたし自身が作り出した、俳句ともいえないような、ふざけ半分と受け取られそうな句でいえば、

「いますこし生きておりたし桐の花」

がある。桐の花が「遠花火」であっても、「ぬくめ酒」であっても「枯木立」であっても、それなりに句はできる。生きたいという執着に、どんな季語がいちばんふさわしいかは、四季それぞれの空気、ひとそれぞれの感じ方があるだろう。さらには

「老いるとはかくなるものか桜餅」

もある。わが身の老衰を楽しむ気にはなれない。老いは常住坐臥ことごとについて回る。これまた桜餅が「梅雨の入り」であっても、「虫の声」であっても「霜柱」であっても、形だけは整う。読む人の共感を呼ぶかどうかは別にして。

「秋時雨老いの下げ行くレジ袋」

というのもある。これはごくまじめな自画像である。自分の姿は自分では見えないが、背がかがみ、足もとが頼りないにちがいない。暑くても寒くても、暮らしがある限り、買物は日々の務めであって、秋時雨が「遅桜」であっても、「虹の橋」であっても「草紅葉」であっても、それなりの情景になるだろう。

上に掲げた句は、いずれもわたしの心情に即している。衷心に発している。駄句であれ、佳句であれ、その一点に違いはない。（ここに「アハハ」と加えたいところであるが、不謹慎なようなので、やめにする）。

足が弱って、外出がおっくうになった。何をするのも煩わしい。礼状さえつい怠りがちである。一日過ぎれば一日分、過去が長くなり、未来が短くなる。過去が長くなればなるほど、心の荷物が重くなり、未来が短くなればなるほど、ゆえしれぬ焦りが募るらしい。焦りは言い換えれば、現世への執着の現れなのだろう。生きて何をするという、確たる目標も計画もない、漠たる歩みであるが。

<編集後記>

この号は編集委員会による制作4号目。まとめ役を代わって2号目。集団での編集制作に移行できつつある。2013年5月のNo.70から東稲ニュースの編集に携わり足掛け7年、40号の制作を担当してきた。歴代の編集担当の中で最長となるのでは？ 前号では気の緩みから掲載漏れ等の事故を起こし、ご迷惑をおかけしてしまった。そろそろ後継者へのバトンタッチの潮時かと実感している。（小山田）

編集委員：有賀 千歳（今回の担当）、小山田 朋樹、片平 るみ、前川 初子